

## ご挨拶

平素より大変お世話になっております。

おかげさまで本誌も今年で創刊 5 周年を迎えました。常日頃のご助力に感謝申し上げます。

パンデミックに襲われたこの 1 年、公演軒並み中止の春から徐々に再開の秋冬となっておりますが、年末年始の感染爆発により、再び緊急事態宣言下にあります。それでも全面中止で生音が消えた昨春に比べれば、どこかで音が鳴り響いていること、音楽の現場を支える方々の懸命なご努力に、深い敬意を抱く次第です。

さて、本誌 2020 年の活動につきまして、ここにご報告いたします。

12 月末のアクセス解析データ、年間企画賞、レギュラー執筆陣自選ベストレビュー&コラム、記事一覧を収録しております。アクセスデータは昨年につき、総合版と海外版を作成いたしました。2019 年 7 月より海外読者向けデータ部分の外国語表記を、2020 年 8 月より google 自動翻訳導入により、海外からのアクセスの飛躍的な増加が見られ、同時に、パンデミックによる世界規模の関心の広がりもそこに反映されていると考えます。

本誌は 2 月末の自粛要請以降 3/15 号より「新型コロナ緊急企画」を設置、音楽界の「対応記録」「特別企画コラム」「コロナ禍での取り組み」「音楽の花輪 #fiori\_musicali\_mercure」と 4 本立てで情報を発信、その充実度に高い評価をいただきました。

一方、2019 年の活動方針「未来への 2 つの提言」は現在も続行中です。若手育成については、海外演奏家の来日不能の状況下、むしろ国内での成果が発揮されつつあるように見受けられます。小さなキャパでの活動、とりわけ現代音楽、古楽領域での小編成公演が元気があったことも特筆しておきます。大量流通・消費でなく、身の丈の育成・自給自足の形、かつ偏狭な内向き・排除とまらない緩やかな経路を生み出すことができたなら。最新テクノロジーと結んでの国際戦略など言う前に、そんな基礎体力ある新たなモデルを地道に、真剣に模索する時期が来たようにも思います。

また「断片でなく思惟へ」については、まさにこの 1 年、それぞれの立場で深く考えねばならない状況に立たされました。「私たちにとって音楽とは何か」が大きく問われていますが、音楽現場の方々の日々はそんな問いに立ち止まってなどいられない切迫した現実であると思われれます。その意味で、ステージに向き合う私たちこそ、誠実にそれを語ってゆくべきでしょう。それは簡単なことではありませんが、ともすれば目先にのみ行く眼を、広く高く向け、問い続け、考え続けることだけは手放さずにいたいと思います。

先の見えない現況ではありますが、皆様の平穏を祈りつつ、為せることを一つずつ積み重ねてゆく所存です。

なお、5 周年を迎え、この場を若い世代へとつなげて行けるよう、運営体制を整備いたしました。新たな運営スタッフは以下となります。

代表／編集長：丘山万里子

事務局：藤堂清

東日本チーフ及び経理：大河内文恵

西日本チーフ：能登原由美

Web 担当：藤堂清、齋藤俊夫、西村紗知

システム管理：久保尚太郎

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2021 年 1 月 25 日

Mercure des Arts 編集長 丘山万里子